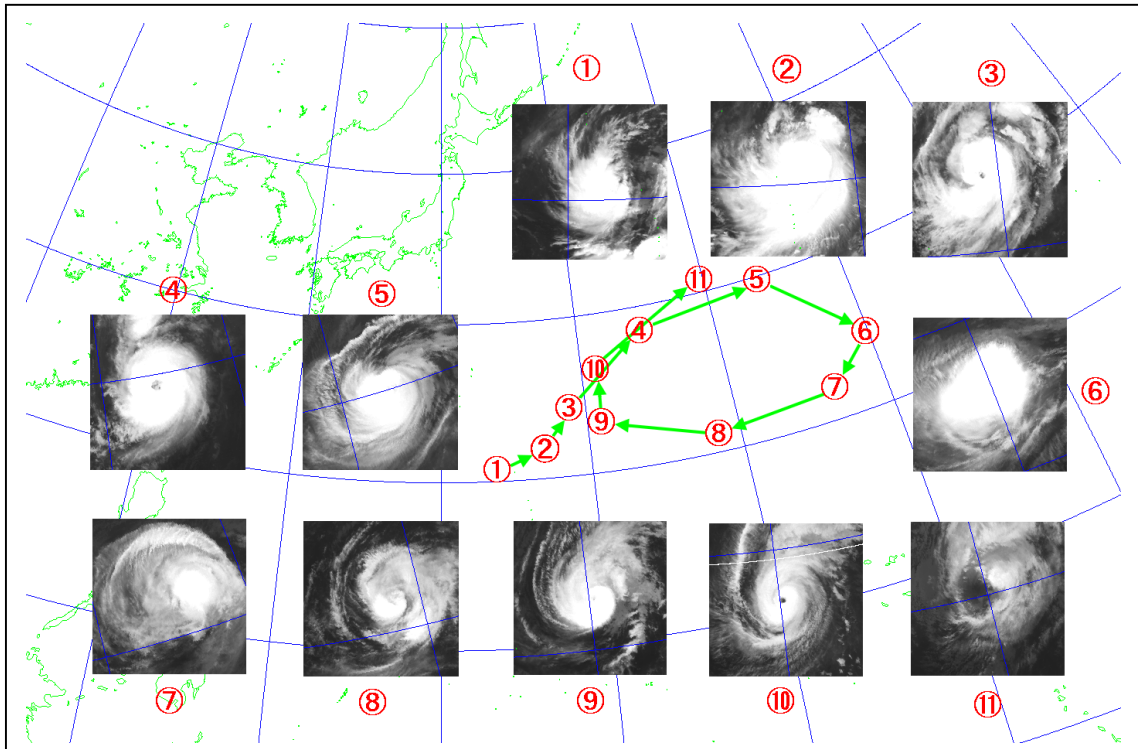


気象衛星画像

—今月のトピックス—



2003年10月21日～31日 各9時の赤外画像

北太平洋上を一周した珍しい台風第18号（Porma）

台風第18号の特徴は上層の高気圧の縁を一周し、寿命が11日と比較的長く、発達のパーク（眼の形成）が2度繰り返された事である。

通常、台風は発生してから高気圧の西縁を偏東風により西進することが多い。夏から秋にかけては高気圧が弱まり、その中心が東に移動するため、台風の進路は西進後北上または北東に向きを変え（転向）、中緯度帯の偏西風に乗り温帯低気圧に変わることが多い。

しかし、この台風第18号は上層の高気圧の縁を回り、再度北東に転向したのちに温帯低気圧に変わった。

図は台風第18号の経路図と主な日時の赤外画像である。①は21日9時（日本時間）の台風の位置および赤外画像であり、以降同様に②～⑪についても22日～31日まで各9時における台風の赤外画像である。台風第18号は、24日（④）には発達して「眼」が形成され、26日（⑥）は一旦衰弱するが、その後29日（⑨）～30日（⑩）にかけて再度発達し、再び「眼」が形成された。

このように台風第18号は、北太平洋上を一周し再発達した珍しい台風であった。

（気象衛星センター）